

令和2年度 第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	令和2年11月11日(水) 13:30～
開催場所	横浜市役所会議室 ほか【WEB会議形式】
出席者	(委員) 小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、間曾さちこ委員 横浜市緑の協会
開催形態	非公開
議 題	1 動物園の取組について 2 令和2年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認 3 令和元年度指定管理者事業評価報告書について 4 令和2年度上半期モニタリング報告
<p>(開会あいさつ)</p> <p>(部長挨拶)</p> <p>* 議事順番入れ替え</p> <p>2 令和2年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認 →了承</p> <p>3 令和元年度指定管理者事業評価報告書 →了承</p> <p>1 動物園の取組 (指定管理者より令和2年度上半期の動物園の取組について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に努力されていることがよく分かった。 ・コロナウィルス感染拡大対策のための休園時期について、動物園スタッフの作業内容に変化はあったか。 →休園中は、お客様がいる時にはできない獣舎の様々な設備改修などに重点的に取り組んだ。緊急事態宣言後は、出勤者を減らすため交代で自宅勤務を取り入れるなど業務に支障がないよう人員を配置し、在宅時は、自宅学習に取り組む体制とした。出勤時には、職員の昼食時は場所を分けたり時間をずらしたりして、仮に誰かが感染しても濃厚接触者が限りなく少なくなるよう対応を行った。 ・新入社員についてメンタル面など問題になっている会社が多いと聞くがどうか。 →特に問題になっているとは聞いていない。 ・入社後からリモート業務となったのか。 →新入社員は在宅勤務時には研修資料を配付し、動物園の概要をはじめ色々と学ぶ形をとったが期間は長くなかった。出勤時には普段と異なり職員が直接指導できる研修期間を長く取ることができたため、かなり厚くケアできている状況である。 	

・夏休みの実習生やアルバイトは、一切受け入れなかったのか。

→受け入れなかった。

・店舗の売上が下がり、事業者の経営状態が厳しいと考えられるが、指定管理者としてどのように考えているか。

→まさに厳しい状況であると聞いている。開園再開にあたり、小売りや飲食業界のガイドラインに則したコロナ対策について、早期の改善に向けて全面的なサポートを行い支援した。開園後は、入園者の増減を上回る売上げを確保できている。引き続き、運営事業者の支援と売上拡大を図っていきたい。

・金沢動物園におけるエンリッチメント大賞敢闘賞受賞やコロナに対応した様々な対策についての努力は、称賛に値する。

・飼育ガイドや教育普及活動など直接的な対人コミュニケーションを伴うことは、今はほとんどストップしているのか。

→直接的なコミュニケーションに関しては現在も全面的に中止している。しかし、国の規制緩和に伴い一部緩和の方向に動いているところである。

→飼育ガイドの中止に代わり、リモートで無観客ガイドを開催し好評だった。多くの頻度で発信することができ、また新入社員にとっても話す練習の機会となった。

・無観客ガイドは、どのような方法で発信しているのか。

→YouTube で発信している。

・ONE ZOO（ワンズー）アプリを利用していないのか。これは、お客様が何か新しい情報がもらえると期待しているアプリだが、そのような使い方を検討しないのか。

→ONE ZOO アプリでは、ズーラシア園長が2時間程度の園内ガイドを発信するなど、新たな形で実施したところである。ONE ZOO では3園それぞれに撮影が来て情報発信を行っている部分があるため、園での発信とONE ZOO を通じた発信は、少し趣が違うものと考えている。また、今後5Gになるので、また新たな展開を事業者と協議しながら進めていきたい。

・シロイワヤギの起立介助は、来園者から見える場所で実施しているのか。

→来園者から見えない寝室における対応であった。

・ウガンダからメスのライオンを入れたが、今後ウガンダからオスのライオンも入れて繁殖させる方向ではないのか。

→今のところ今回来たメスから血統を作っていきたいと考えているため、その方向性ではない。

・シロイワヤギをはじめブロングホーン、ガウルやアノアなどがいなくなってしまった。ここにしかない動物を目玉にするやり方は、時間がたった時その繁殖相手がいなければ、結局外国からの輸入を頻繁に行う必要がでてくる。今後もここにしかない動物を探すのか、もしくは方向転換して日本国内で協力していくかなど、どのように考えているか。

→今後の方向性については、はっきりと方針を出していない状況である。御指摘のとおり、ここにしかない

い希少動物を累代維持していくのは非常に難しい状況になってきているが、どこに行っても見ることでできる動物ばかりでは、動物園もなかなか魅力が作りにくいという面もある。施設面も含めバランスを見ながらどういった動物を入れていくべきかという点は実際に交渉にあたっている方々の意見も含めて考えていきたい。

・インターンシップの件について、今、市内の大学と企業の間でオンラインで実施する動きがあるが、動物園でも検討できるか。

→まだ考えていないが、市内の小中学校で全生徒にタブレット端末が今年度中に整備されるという話があるため、学校プログラムについて、リモートの対応をしていく検討をはじめている。

・動物園では、生きている動物に接する体験＝実習が必要だと思う。動物園の実習をリモートで行うとお互いに相当苦勞しても得るものが少なく、コストパフォーマンスが悪いのではないか。そこに無理に労力を割かなくてよいと思う。

4 令和2年度上半期モニタリング報告

(事務局より令和2年度上半期モニタリング報告について説明)

・評価の「適切」、「おおむね適切」はどのような違いか。

→指摘事項がなく実施できていれば「適切」と表現している。若干指摘事項があるが特に問題はない場合には「おおむね適切」と表現している。

・作業遅延確認等に関する無線の定時連絡を行っていない件について、市からは是正の指示は行わないのか。

→猛獣など危険な動物については、きちんと実施している。今回の指摘は作業遅延者の連絡のみを指摘しているものなので必須ということではないが、金沢動物園は行っていたので、他の2園も何らかの方法があるとよいということである。

・無線連絡のルールについては、規模の小さい園と大きい園では課題も異なる。これから試行錯誤していく必要があり、現状では今後の課題が見えたとの段階でよいのか。

→はい。

・オンラインのインターンシップは難しいという話があったが、取り扱う内容ややり方によっては、受入枠を増やすことができた例もある。繁殖センターで実施した学生の実習において、最初に動画を視聴しその後分散して動物園を見学する流れで実施したところ、これまで上限30人としていたが希望者45人全員が受講できた。また、動画は一人で複数回見ることもできるので、そのような面をうまく活用できると思う。

・シロイワヤギなど高齢個体へのケアについて、ラクダのツガルさんの例もあるが、日本では高齢個体へのケアは良いとされるので、良いことだと思う。しかしシロイワヤギの起立介助の画像は、その目的などがよく分からないまま画像を見ると違和感を持たれかねない。感情的な問題ではあるが、見た目が必要になるので情報発信はうまくやってほしい。

・キリンやオオツノヒツジを博物館や大学へ標本として提供しているが、シロイワヤギは耳だけを国環研へ持っていった理由は何か。

→他の個体は骨格標本ということで博物館に出す予定だが、その前に組織の研究で先に一部だけ提供したと聞いている。

・耳だけ切ると剥製の標本はできなくなると思うが。

→元々老齢であったため、剥製には不向きであった。

・今回の評価はこれでよいが、現在コロナ禍にあり今後の評価の仕方そのものを工夫しなくてはならない状態になっている。オンラインガイドの実施等も評価する必要があると思う。今後評価方法自体をPDCAサイクルに載せていくことが必要で、特に委員が評価する6項目の適切性を含めて見直していきたい。現在の評価項目6項目についてはかなり漠然としているところもあるため、配点が均等でよいのかを軸に検討したい。そのときに脱温暖化や動物園そのもののSDGsもどう組み込んでいくか念頭に置いて考えたい。

事務局側の採点は仕様書に基づくものだと理解しているので、ベースはゆるがないと思うがそれを数値化するに当たり、コロナ対応も含め改良の余地があるか事務局側で検討してほしい。

→市では評価の仕方そのものを今変更することは考えていないが、コロナの影響を受けどのような着眼点で見えていくのかなど工夫の仕方はあると思っている。委員の採点方法についてお考えをご提案いただければ市でも検討し、委員会でも議論していきたい。

その他

・次回は令和3年3月24日（水）開催

・開催方法は別途検討し連絡する。

（一同了承）

配布資料

資料1	令和2年度第1回指定管理者選定評価委員会議事録案
資料2	令和元年度指定管理者事業評価報告書案
資料3	令和2年度上半期モニタリング結果